

多様な部活動の 在り方を探る



体力の向上を図る上で、日常的に運動やスポーツに親しむ時間の確保は大変重要である。特に、中学校女子においては、日常的に運動を行わない生徒への対応が求められている。ここでは、小学校での運動部活動や中学校の文化部の中で、運動やスポーツに親しむことで体力の向上に成果を上げている学校の事例を通して、学校の部活動の在り方について考えていきたい。

運動やスポーツの体験を通して、自己肯定感を高める

小学校段階では、様々な体の動きを経験することが大切であろう。港区立港南小学校では、キッズスポーツアカデミーという取組を実施しており、週1回放課後に自由参加で、担当の教員が替わりながら、マット運動、ボール運動、ミニ駅伝等に取り組んでいる。さらに、週1回中休みに実施している元気アップタイムで、25種類ほどある運動やスポーツから好きな種目を選んで取り組む機会を設けている。自分は、どんな運動やスポーツが好きなのか、楽しみながら経験して、その後の活動にもつながっている。学校組織をあげて、運動やスポーツを行う機会をつくり、次のステップにつながる取組を行っている。

取組のポイント

- いろいろな運動やスポーツに親しむ機会をつくる
- 目標をもって部活動に取り組む
- 部活動の活動内容をひと工夫する
- 好きそうで、できそうな運動やスポーツを行える場を提供する

point

目標をもって 部活動に取り組む

小学校での部活動がどのように実施されているのかにも注目したい。港南小学校では陸上部、習志野市立津田沼小学校ではサッカー部とミニバスケットボール部を設置して、大会での活躍を目指して朝練習や放課後練習に取り組んでいる。目標をもった取組は、児童の運動への意欲や責任感、連帯感を高め、運動を継続することにより、体力の向上と自信へとつながっていく。これらの取組の背景には、教職員や地域の指導者の理解・協力が欠かせない。

文化部内で運動や スポーツに取り組む

日立市立河原子中学校では、部活動合同朝練習を週4日行っている。練習には、様々な部活動に所属している生徒が陸上競技を中心として活動に参加している。保健体育科の教員の「生徒たちに運動の楽しさ、達成感や成就感を味わわせたい」との思いから、保健体育の授業の充実と合わせて、合同部活動朝練習を開始した。

合同部活動朝練習に参加した生徒が市の陸上競技大会や駅伝大会に出場し、今年度は県新人陸上大会で男子が総合優勝するまでになっている。

吹奏楽部員も、自らの部活動の目的であるマーチングバンドの演奏技術の向上とその土台となる体力の向上に取り組み、合同部活動朝練習に参加して、保健体育の専門の先生よりアドバイスをもらいながら、自らの体力を徐々に引き上げている。

学校や地域の行事への参加が 意欲を高める

また、部活動での取組を他の行事につなげる事例もみられた。河原子中学校では、運動会で部活動引継ぎ式を行い、部活動の中心を3年生から2年生に引き継ぐ儀式を、全生徒、



▲部活動伝言板。
3年生からのメッセージが書きこまれている。

保護者、地域の方々の前で披露している。そのことにより、部活動の伝統を継ぐ責任と自覚が生まれている。

取材
記録地域貢献を目的とし、運動やスポーツに親しむ
～検討委員による 三郷市立彦糸中学校 訪問調査から～好きで、
できそうな種目を用意する

運動がきらい・苦手な生徒にとって、学校内で体を動かす機会は、保健体育の授業以外ではほとんどない状況である。そのような生徒が日常的に運動やスポーツに親しむためには、「好きで、できそうな運動やスポーツを学校内に設ける」ことが重要となる。

彦糸中学校が設置している地域貢献部は、どの生徒にも兼部を認めており、文化部所属の生徒も在籍している。その活動内容は、フラや和太鼓などである。地域貢献部の活動の目的は、地域や学校への貢献である。



▲地域貢献部の和太鼓の練習



▲地域貢献部のフラの練習

そのため、入部する生徒は、人のために何かをしたい、喜んでもらいたいという明確な目的をもち、学校や地域の行事での発表等を通して、地域の人とかかわりながら、誇りをもって活動している。体力の向上が目的ではないが、活動を通して自然と運動やスポーツに親しんでいるのである。

友達と一緒にできる

友達や仲間と一緒に運動やスポーツに親しむことは、運動に対する意欲を喚起して、もっとやりたい、もっ

と上手になりたいという向上心を高めることにつながっていく。

人前で発表するにあたって、よりよいものを発表したいと思うことは当然であり、活動の中で、時には求められるものも厳しくなる。その過程の中で、生徒たちには、より深い人間関係が求められる。友達や仲間と一緒に、それを乗り越えることにより、より深い理解が生まれるとともに、学校・地域に対する思いも強くなると考える。達成感や成就是感、運動やスポーツに対する抵抗感をあまり感じさせず、運動への肯定感を高めていくであろう。

自分のペースでできる

地域貢献部の活動は、原則昼休みのみである。練習の参加も自主的である。運動やスポーツを続けることは大切であるが、自分のペースで参加できることは、運動やスポーツが苦手な生徒でも「参加してみよう」と思える重要な要素であろう。

学校の声

地域貢献部に入部するためには、決意表明文を書かなければなりません。学校の代表として、地域や学校のために活動する、という理念を入部段階で共有し、意欲の高い生徒の入部を許可しています。決意表明文には、活動に対する生徒一人一人の前向きな思いが綴られています。



▲地域貢献部の入部届に記入している決意表明文